

# 第10回 FUJITA ブレインサイエンスセミナー

(精神・神経病態解明センター開催)

## ケミカルバイオロジーを基盤とした生命科学と創薬研究

"Life sciences and drug discovery based on chemical biology"



国立研究開発法人理化学研究所

吉田 稔 先生

日時: 2026年 3 月 17 日 (火) 17:00 ~ 18:00

場所: 大学2号館9階901とZoomのハイブリット開催  
※学外者はZoomのみ

Language: Japanese (日本語)



### 参加登録 URL

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_0pYT-Oq9Qum1yC2IYIcR9w](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_0pYT-Oq9Qum1yC2IYIcR9w)

ケミカルバイオロジーは、化学的手法によって生命現象を解明する研究分野として発展してきた。歴史的に我が国は、天然物化学がきわめて強力であり、蓄積された天然活性物質群はケミカルバイオロジーにおける潜在的な研究材料の宝庫である。ユニークな生物活性物質には、必ず細胞内に特異的な標的分子が存在し、その同定は生物学に重要な発見をもたらすと同時に、創薬のための有用な情報を与えてくれる。私達は、その標的分子を発見する方法として、遺伝学における変異を化合物に置き換えた化学遺伝学の確立を目指してきた。その結果、エピジェネティクスを制御するヒストン脱アセチル化酵素やタンパク質核外輸送因子をはじめ、多くの遺伝子発現制御因子を同定し、いずれも生命科学の革新と抗がん創薬標的の発見につながった。さらに、私達はがんだけでなく、遺伝病治療への応用を目指した創薬研究にも取り組んでおり、併せて紹介したい。

お問い合わせ・連絡先

・講演内容について／佐野 裕美 (精神・神経病態解明センター 内線: 9379)  
・その他／鶴田 未奈子・池田 彩乃 (研究支援部 研究支援課 内線: 2590)

2026 年 2 月 2 日  
February 2, 2026

学生・教職員各位

To all students and faculty staffs

藤田医科大学 精神・神経病態解明センター  
センター長 貝淵弘三

令和 7 年度  
第 10 回 FUJITA ブレインサイエンスセミナー 開催通知  
Information on FUJITA Brain Science Seminar 2025

◆ 演者：吉田 稔 先生（国立研究開発法人理化学研究所）  
「ケミカルバイオロジーを基盤とした生命科学と創薬研究」

Minoru Yoshida (RIKEN)

- Life sciences and drug discovery based on chemical biology -

日時: 2026 年 3 月 17 日 (火) 17:00 - 18:00

Time and Date: Tuesday, March 27, 2026, 17:00-18:00

場所: 大学 2 号館 9 階 901 とオンライン (Zoom) のハイブリッド開催  
※学外者はオンライン (Zoom) のみ

Room: University personnel can attend the seminar at 901,9F, Building No.2 and online Zoom. Others can attend it online (Zoom).

受講対象者: 学内外にかかわらず、どなたでもご参加いただけますが、生命科学について大学学部生程度以上の知識をお持ちであることが望ましいです。

参加方法: オンラインでご参加の方は、下記サイトより必ず事前登録してください。

このミーティングに事前登録する:

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_0pYT-Oq9Qum1yC2iYlcR9w](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_0pYT-Oq9Qum1yC2iYlcR9w)

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

使用言語: 日本語

Language: Japanese

**講演要旨:** ケミカルバイオロジーは、化学的手法によって生命現象を解明する研究分野として発展してきた。歴史的に我が国は、天然物化学がきわめて強力であり、蓄積された天然活性物質群はケミカルバイオロジーにおける潜在的な研究材料の宝庫である。ユニークな生物活性物質には、必ず細胞内に特異的な標的分子が存在し、その同定は生物学に重要な発見をもたらすと同時に、創薬のための有用な情報を与えてくれる。私達は、その標的分子を発見する方法として、遺伝学における変異を化合物に置き換えた化学遺伝学の確立を目指してきた。その結果、エピジェネティクスを制御するヒストン脱アセチル化酵素やタンパク質核外輸送因子をはじめ、多くの遺伝子発現制御因子を同定し、いずれも生命科学の革新と抗がん創薬標的の発見につながった。さらに、私達はがんだけでなく、遺伝病治療への応用を目指した創薬研究にも取り組んでおり、併せて紹介したい。

**担当者連絡先:**

- ・講演内容に関して: 佐野 裕美 (精神・神経病態解明センター 内線: 9379 メール: [hiromi.sano@fujita-hu.ac.jp](mailto:hiromi.sano@fujita-hu.ac.jp))
- ・その他: 鶴田 未奈子・池田 彩乃 (研究支援部 研究支援課 内線: 2590 メール: [icbs@fujita-hu.ac.jp](mailto:icbs@fujita-hu.ac.jp))